

調査研究活動実績

氏名 依光晃一郎

今年度は、コロナ禍における高知県政について、幅広い視点から調査しました。特に、高知県の人口問題を、ICT技術を活用して解決していくという視点を重視しました。またグリーン化という国の流れを追い風に、県内木材を使った、軸組工法の住宅を建てるための調査研究を行いました。また若手大工の育成のための県内工務店へのヒアリングから、県庁への提言書も作成しました。

本年度（3年度）の政務調査研究に関する主な活動の実績は次の通りです。

- 1 高知県の人口問題について
 - ・第1期まち・ひと・しごと創生総合戦略において、社会増減の均衡を達成できなかった原因という視点
- 2 高知家@ラインについて
 - ・安芸圏域でのモデル事業の成果や課題を、県内の他の圏域にどう広げていくかという視点
 - ・医療・福祉分野における新たなビジネスの創出に向けた取り組みという視点
- 3 高知県の情報通信基盤について
 - ・現在の情報通信基盤について、どのように評価しているのかという視点
 - ・今後も増加が想定されるデータ通信容量に対応した設備更新を、市町村にどう支援していくかという視点
- 4 就職支援について
 - ・県内の大学に進学した学生を県内企業への就職につなげる取り組みという視点
- 5 子ども・福祉政策部について
 - ・子ども・福祉政策部を本年度から設置した意義という視点

6 移住施策について

- ・子育てを機に帰ってこようとしている若者への転職や育児の情報提供という視点

7 中山間地域対策について

- ・集落实態調査について、前回は踏まえてどのような内容で実施するかという視点
- ・コロナ禍を通じて発見した中山間地域の移住先としての可能性という視点

8 ひきこもり対策について

- ・ひきこもりの相談窓口について、県民にどのように広報していくのかという視点

9 買い物弱者対策について

- ・中山間地域の物流の維持という視点

10 グリーン化の取り組み強化について

- ・グリーン化に係る新技術、新製品の開発促進という視点
- ・金融機関と連携した新たな補助制度の創設という視点
- ・企業誘致の今後の取り組みという視点
- ・省エネ住宅に関して、木造軸組工法を進めていくという視点
- ・脱炭素社会推進アクションプランに木造軸組工法を位置付けるという視点

11 政策立案の活性化について

- ・部局長の特別裁量予算の計上という視点
- ・議会からの提言に対する検討委員会の設置という視点
- ・未知の時代を切り拓き、新たな戦略を描ける県庁の人材育成という視点